

## 新たな四街道市総合計画 課題マップ

### 1. 全国的な変化

#### (1) 社会経済情勢

##### ①人口減少と少子高齢化の進行

- ・我が国の人口は、平成22年(128,057千人)から令和2年(126,146千人)の10年間で約1.5%減少しており、老年人口割合は令和2年で28.7%と、世界で最も高い水準となっている
- ・国立社会保障・人口問題研究所による人口推計(平成29年)では令和42年(92,840千人)までの40年間でさらに人口が約25%減少する見込みとなっている

##### ②高まる安全、安心への意識

- ・近年、各地で大規模な自然災害が相次いでいる
- ・刑法犯認知件数は減少しているものの、手口の巧妙化や多様化が進んでいる

##### ③持続可能な社会づくりの進展

- ・平成27年に国連サミットで「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択されたほか、COP21では、「パリ協定」が採択され、世界が脱炭素社会に向けて大きく舵を切るなど、持続可能な社会づくりが一層重要となってきている

##### ④デジタル技術の実装

- ・デジタル技術が実証の段階から実装の段階へと移行しつつあり、デジタルの力を活用した地方の社会課題解決と魅力の向上が期待されている

##### ⑤不確実性の高い経済情勢

- ・米中貿易摩擦や新型コロナウイルス感染症の影響に加え、ロシアによるウクライナ侵攻に伴う物流の混乱や原材料価格の高騰など、経済情勢の不確実性はますます高まっている

##### ⑥新たな日常の構築

- ・外国人人口の増加に加え、国籍・地域の多様化が進む中、多様性と包摂性のある社会を実現するため、多文化共生の社会づくりが求められている
- ・新型コロナウイルス感染症の世界的流行により、生命と健康が脅かされたことから、感染リスクを引き下げながら、経済社会活動の継続を可能とする「新たな日常」の実現が図られている

#### (3) 広域計画<千葉県>:千葉県総合計画

##### 基本理念

～千葉の未来を切り開く～

「まち」「海・緑」「ひと」がきらめく千葉の実現

##### 基本目標

- I 危機管理体制の構築と安全の確保
- II 千葉経済圏の確立と社会資本の整備
- III 未来を支える医療・福祉の充実
- IV 子どもの可能性を広げる千葉の確立
- V 誰もがその人らしく生きる・分かり合える社会の実現
- VI 独自の自然・文化を生かした魅力ある千葉の創造

### 2. 市の状況

#### (1) 人口推移・動態

##### ①人口推移・人口構成:人口増加が継続

- (国勢調査H22:86,726人→H27:89,245人→R2:93,576人)
- ・人口増加は、子育て世代の転入が継続していることが主な要因
- ・千葉県や全国と比較すると、年少人口や老年人口割合は高い一方、生産年齢人口割合は低くなっている
- ・将来人口推計(人口ビジョン)では、令和12年に人口ピークを迎えるほか、老年人口割合は令和22年以降にさらなる増加が予測されている

##### ②婚姻件数:コロナ禍で大きく減少(H23:409件→R2:306件)

- ・千葉県や全国と比較すると、有配偶率は高いものの、婚姻率は低く、さらに有配偶率、婚姻率とも減少傾向にある

#### (2) 土地利用

##### ①地域における人口構成等:地域によって異なる人口構成等

- ・昭和40～50年代に開発された住宅団地(千代田、旭ヶ丘、みそら)などは、転入者が少なく、人口構成が固定化しており、老年人口割合が4割以上、年少人口割合が1割以下と、少子高齢化の傾向が強く進行
- ・近年開発された住宅団地(めいわ、もねの里)などは、転入者が多く、老年人口割合2割以下、年少人口割合2割以上と、若い世代が多い

##### ②土地利用:宅地が増加する一方、田、畑、山林などが減少

- ・近年の住宅供給は、市街化区域内の住宅団地(めいわ、もねの里)以外にも、大日、内黒田、栗山などの市街化調整区域における供給が多くなっているが、新たな大規模開発の予定はない
- ・市民一人当たりの公園整備面積:横ばい(H28:7.2㎡/人→R3:7.1㎡/人)
- ・市街化調整区域(特に大日、鹿放ヶ丘)において、農地や小規模住宅団地、資材置き場等の土地利用が混在している

##### ③自然動態:自然減で推移

- ・出生数は約700人で横ばいだが、死亡数が増加傾向にあり、平成24年以降は自然減で推移(自然増減H23:19人→R2:-155人)
- ・合計特殊出生率は令和2年1.50(県内3位)と、千葉県や全国の平均を上回るものの、人口減少に歯止めのかかる水準には達していない

##### ④社会動態:社会増を維持しているが、20代の転出が多い

- ・転入者の特徴:年齢は子育て世代(20代、30代)とその子ども(10代未満)が多く、転入元は近隣市(千葉市、佐倉市等)が多い
- ・転出者の特徴:年齢は20代が多く、転出先は千葉市や東京都が多い

#### (3) 分野

##### ①保育所定員:10年前の2倍以上(H23:752人→R3:1,588人)

- ・保育所待機児童数:令和3年に0人の一方、保育需要の増加が続いている

##### ②児童生徒数は増加傾向の一方、学校別では規模の不均衡が拡大傾向(児童H28:5,002人→R2:5,193人、生徒H28:2,368人→R2:2,398人)

- ③要支援・要介護認定者数:高齢化のさらなる進行とともに10年前の約1.5倍に増加(H23:2,466人→R2:3,968人)

##### ④身体障害者手帳の交付者数は10年前と同程度の方、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳の交付者数は10年前の1.5倍以上に増加

##### ⑤国民健康保険特定健康診査の受診率:コロナ禍で減少

- (H28:35.8%→R1:33.1%→R2:16.8%)

##### ⑥新型コロナウイルス感染症:令和2年以降多数の感染者が発生

- ・令和2年以降、感染拡大と縮小を繰り返し、定常的な感染対策と新たな日常の構築が求められている

##### ⑦自然災害:台風や大雨による道路冠水や浸水被害が発生

- ・令和元年台風15号、19号及び大雨による一連の自然災害により人的被害、物的被害が発生

##### ⑧刑法犯認知件数(H23:1,268件→R2:455件)、交通事故発生件数(H23:297件→R2:183件)とも減少傾向

##### ⑨建築確認申請数:減少傾向(H28:695件→R2:602件)

- ・一戸建て空き家率:減少傾向だが、将来的な人口減少、高齢化のさらなる進展に伴う空き家の増加懸念(H25:5.4%→H30:3.9%)

##### ⑩ごみ排出量:一人当たり排出量は横ばい

- (H28:826g/人日→R2:822g/人日)
- ・ゼロカーボンシティ宣言(R2.7)

##### ⑪観光入込客数:増加傾向だったが、コロナ禍で減少

- (H23:3.2万人→R1:11.2万人→R2:5.7万人)

##### ⑫販売農家数:減少傾向(H22:341戸→R2:226戸)

##### ⑬事業所数:減少傾向(H26:2,545所→R1:2,451所)

- ・工業:事業所数は減少傾向(H23:62事業所→R2:42事業所)の一方、従業者数は横ばい(H23:1,107人→R2:1,074人)
- ・卸小売業:年間商品販売額は増加傾向(H24:909.7億円→H28:1,151.3億円)

##### ⑭公共交通利用者数:横ばいだったが、コロナ禍の令和2年は減少

- (一部バス路線や市内循環バス「ヨッピー」の運行経費の補助を継続実施)

##### ⑮市の認知率:横ばい(H23:67.0%→R1:67.2%)であり、

- ・ふるさと寄附:増加傾向(H28:75件1,510千円→R2:574件18,957千円)

##### ⑯市の財政力:財政力指数は横ばい(H28:0.815→R2:0.815)

- ・市税総額は増加傾向(H28:110.1億円→R2:117.3億円)だが、コロナ禍や将来的な人口減少に伴う、市税の減収懸念

##### ⑰公共施設等:総合管理の必要性

- ・多くの施設が昭和50年代から平成の初めにかけて整備・建設され、約6割が築30年を超えており、長期的視点に基づく公共施設の再配置のほか、老朽化した都市基盤の計画的更新や長寿命化が必要

### 3. 市民から見た四街道市

#### (1) 四街道市の「いま」

##### 《市民意識調査R3.10》

(住み心地)	H27	R2
①約8割が、四街道市は『住み良い』	76.1%	79.0%
②約8割が、四街道市に『住み続けたい』	76.3%	77.3%
③7割台半ばが、四街道市を『好き』	73.4%	74.7%

(魅力)	(課題)
④「日常生活(買い物など)」や「自然環境」が魅力	⑥「公共交通」や「道路などのインフラ」、「医療や福祉サービス」が課題
⑤「生活基盤」や「消防・救急」、「住環境」の満足度が高い	⑦「道路・交通」や「市街地形成」は不満度が高い

(転入)
⑧転入のきっかけは、主に「同棲・結婚・出産」や「新しい住宅」のため
⑨転入の決め手は、主に「手ごろな価格の住宅」や「通勤等の利便性」

(今後の重要度)
⑩「高齢者支援」や「防災・減災」、「消防・救急」、「道路・交通」の重要度が高い

《若者、子育て世代アンケートR4.8》	(魅力)	(課題)
⑪「イベント(ふるさとまつりや産業まつり等)」や「子育て施策」、「医療・福祉」が魅力	⑫若者・子育て世帯とも「魅力的な取組や活動がない」が3割前後であったことや、若者の3割以上でUターン意向がない点が課題	

(結婚・子育て)
⑬若者は、結婚しやすい環境のため、「経済的支援」を望んでいる
・若者の結婚希望は7割以上
⑭子育て世帯は、子育てしやすいまちへ向けて、「経済的支援」や「教育」、「保育所等の預け先」に関する取組を期待
・理想とする子どもの人数は、若者が平均1.9人、子育て世帯が平均2.5人

(SDGs)
⑮「3:健康と福祉」、「4:質の高い教育」、「11:住み続けられるまちづくり」への関心が高い

《よびくる会議R4.11》	(魅力)	(課題)
⑯「住環境」(自然が豊か、住環境が整っている)や「道路・交通」(通勤、通学に便利)、「子ども・子育て」(教育設備が整っている)が魅力	⑰「住環境」(交流の場が少ない)や「道路・交通」、「産業・就労支援」が課題	

#### (2)四街道市の「みらい」

##### ○長期的に目指すまちの姿 《市民意識調査R3.10》

- ・「子育てしやすいまち」や「福祉のまち」、「防災・防犯体制の整ったまち」、「良好な住環境のまち」

##### ○これからの四街道市《若者、子育て世帯アンケートR4.8》

- ・若者、子育て世帯とも、「子育て・教育」や「防災・防犯」、「健康」の充実が特に期待されている

##### ○わたしたちの未来を考えよう 《よびとーくR4.8》

- ・さまざまな立場からいろいろな未来(子育て:子どもが真ん中のまち、教育:世界とつながる子どもたちを育てられるまち、文化:芸能と文化の香り豊かなまち、住環境:歩きやすいまち)

##### ○みんなの〇〇なまちにしたい! 《ポスターセッションR4.11》

- ・「子ども」に関するまちや「やさしい」、「楽しい」まちにしたい

##### 《よびくる会議R4.11》

##### ○めざすまちの姿(分野別提言)

- ・「人と人がつながる、幸せな、豊かなまち」、「夢があふれる、夢をつくる、住み良いまち」、「すべての人に寄り添う、誰一人取り残されないまち」、「若い世代が子どもを産みやすく育てやすいまち」、「「今ある幸せ」つながって共有できるまち」、「子どもと高齢者に優しい、住み続けたいと思えるまち」
- ・めざすまちに向けては、「魅力の創出や発信」、「市民・地域活動、交流の場づくり」、「企業誘致、産業振興」、「安全・安心、快適なまち」などに関する取組が必要